

HANDS-ON GUIDE | ハンズオン資料

Azure AI Foundry（Microsoft Foundry）は 初めての AI エージェント作成ハンズオン

ポータルだけで進める最短ステップ（ノーコード）

対象：これから Azure で AI エージェントを試す初心者の方

所要時間の目安：約 20～30 分 / 必要なもの：Azure サブスクリプション（無償アカウント可）

本資料は 2026 年 6 月時点の Microsoft 公式ドキュメントに基づいて作成しています。

※ 画面図は操作イメージを示す模式図です（実際の画面とは異なる場合があります）。

はじめに

このハンズオンでは、Microsoft Foundry（旧 Azure AI Foundry）のポータルを使い、コードを書かずに AI エージェントを「作成 → テスト → 発行」するまでの最短の流れを体験します。まずは小さく動かして感触をつかむことが目的です。

💡 「プレビュー」について

本資料で「（プレビュー）」と記した機能は正式提供（GA）前の試用段階です。SLA 対象外で本番利用は非推奨、仕様変更の可能性があります。最新の提供状況は公式ドキュメントでご確認ください。

⚠️ 検証時のガバナンス注意（重要）

- ・実データ（顧客情報・社内文書・個人情報）はテストに使わない。サンプルデータで試す。
- ・画面を社外に共有する際は、サブスクリプション ID・リソース名・エンドポイント・API キー・課金額をマスキング。
- ・検証が終わったらリソースを削除してコストを止める（最終ページ参照）。

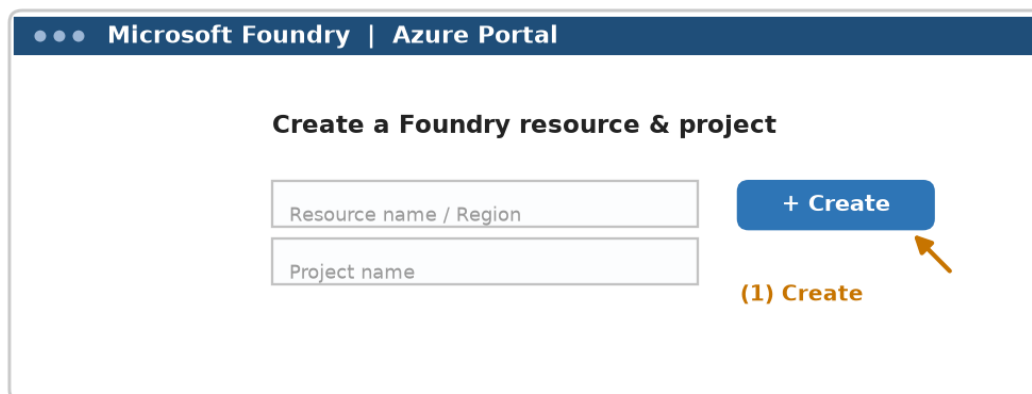
前提条件

- ・ Azure サブスクリプション（無償アカウントでも開始できます）
- ・ 新規に Foundry プロジェクトを作る場合：リソースグループの「所有者（Owner）」相当の権限
- ・ 既存プロジェクトを使う場合：「Foundry Project Manager」相当の権限
- ・ Web ブラウザ（本ハンズオンはポータル操作のみ。コードは不要です）

全体の流れ

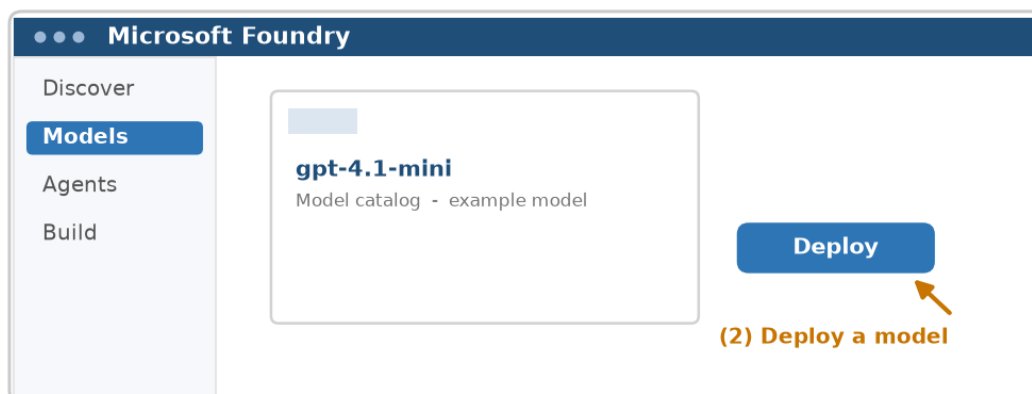
ステップ	やること
STEP 1	Foundry リソースとプロジェクトを作成する
STEP 2	モデルをデプロイする（軽量モデルで OK）
STEP 3	エージェントを作成して名前を付ける
STEP 4	指示（システムプロンプト）を設定する
STEP 5	ポータル上でテストする
STEP 6	（任意）ツール追加・トレース確認
STEP 7	発行して外部ツールから利用する

STEP 1 Foundry リソースとプロジェクトを作成



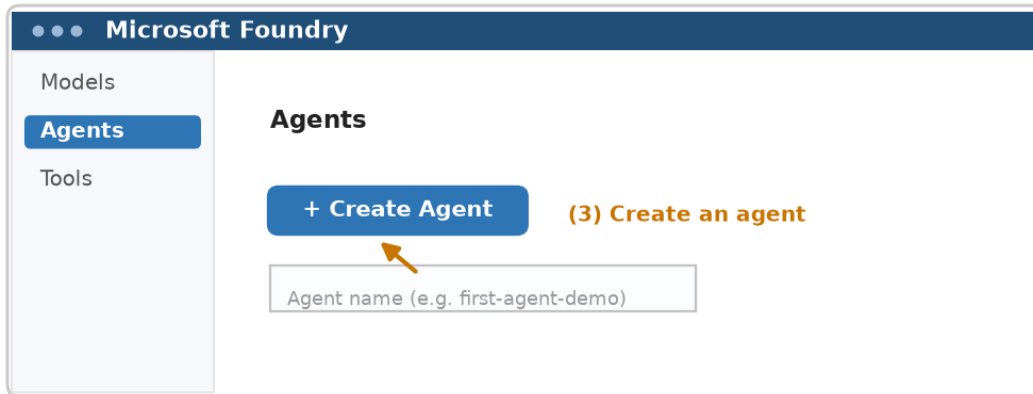
1. Azure ポータルで「Microsoft Foundry」を検索、または Foundry ポータル (ai.azure.com) にアクセスします。
2. 「作成」から、サブスクリプション・リソースグループ・リソース名・リージョン・プロジェクト名を指定して作成します。
3. デプロイ完了後、「Foundry ポータルへ移動」を選びます。新しい UI (Microsoft Foundry) で進めます。

STEP 2 モデルをデプロイする



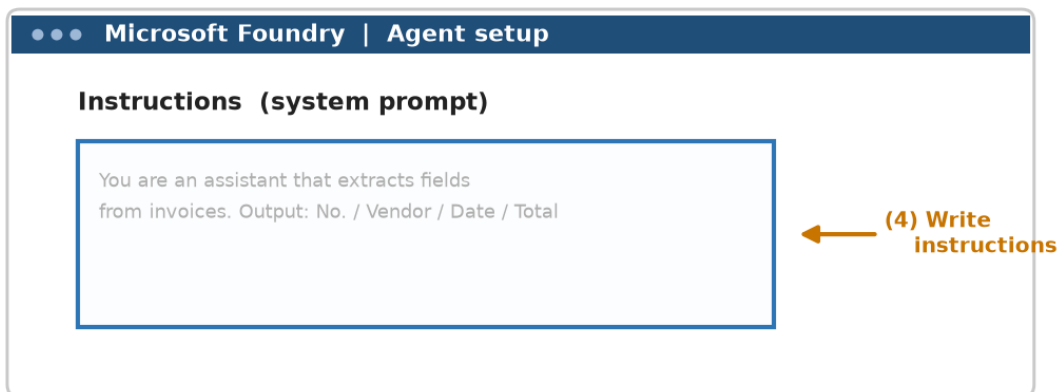
1. 上部メニュー「Discover」→左メニュー「Models」でモデルカタログを開きます。
2. 軽量モデル（例：gpt-4.1-mini など。最新の利用可能モデルはカタログで確認）を選びます。
3. 「Deploy」をクリック。必要に応じて Custom settings でデプロイ名やクォータ (quota) を設定します。
4. 完了すると「Build → Deployments」に表示されます。

STEP 3 エージェントを作成する



1. 左メニュー「Agents」→「Create Agent」を選びます（中央の「Start building」からでもOK）。
2. STEP 2 でデプロイしたモデルを選択します。
3. 分かりやすい名前を付けて保存します（例：first-agent-demo）。

STEP 4 指示（システムプロンプト）を設定する

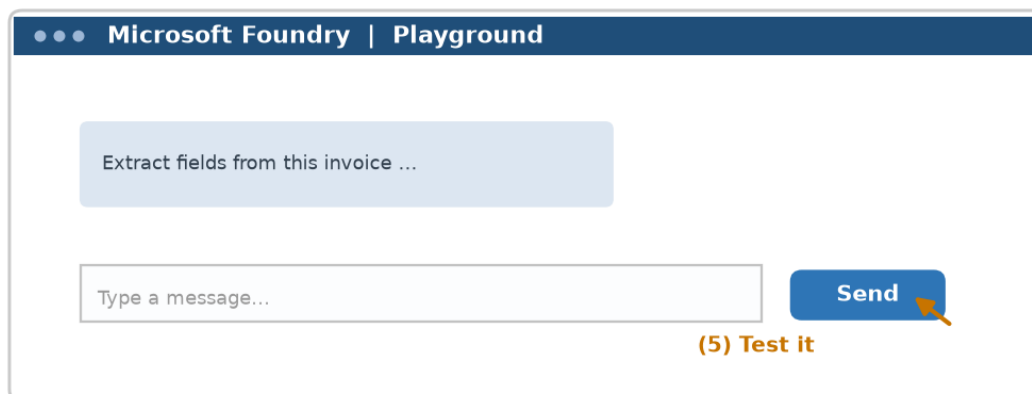


エージェントの**役割・タスク・出力形式**を「Instructions」に記述します。これが振る舞いを決める最重要ポイントです。

記入例（請求書から項目を抽出するアシスタント）

あなたは請求書から項目を抽出するアシスタントです。常に次の形式で出力してください：
請求書番号／取引先／日付／合計金額

STEP 5 ポータルでテストする



ポータルのテスト画面に入力を送り、出力を確認します。

テスト入力の例

次の請求書から項目を抽出してください：請求書 7781、BlueWave 社、合計 219,500 円、2024/04/12

期待される出力

請求書番号：7781 / 取引先：BlueWave 社 / 日付：2024/04/12 / 合計金額：219,500 円

期待どおりの構造化された出力になれば成功です。指示を調整しながら精度を上げていきます。

STEP 6 （任意）ツール追加・トレース確認

- 「Tools」から Web 検索や Azure AI Searchなどを追加し、エージェントの能力を拡張できます。
- バージョン管理やトレース（実行ログ）で挙動を確認し、改善できます。
- ※ 高度なツールや一部機能はプレビューの場合があります。提供状況は公式ドキュメントで確認してください。

STEP 7 発行して利用する



1. 「Publish」でエージェントを発行すると、エンドポイント URL と API キーが用意されます。
2. Power Automate / Logic Apps などの外部ツールから、HTTP で呼び出して利用できます（ノーコード連携）。
3. Microsoft 365 Copilot や Teams への発行（プレビュー）にも対応しています。

検証が終わったら：後片づけ（コスト停止）

⚠️ 使い終わったら必ずリソースを削除

デプロイしたモデルやプロジェクトを残すと課金が続く場合があります。検証が終わったら作成したリソースを削除してコストを止めましょう。リソースグループ単位で削除すると取り残しが減りますが、同じグループ内の他リソースも削除されるため、対象をよく確認してください。

つまづきポイント

- PoC 止まりになりがち：最初から本番運用・監視まで見据えて、小さく作って段階的に拡張する。
- いきなり高機能構成を選ばない：軽量モデル＋ノーコードから始め、必要に応じて高度化する。

出典・注記

Microsoft Learn 「Microsoft Foundry Quickstart」 「Foundry Agent Service」 「Quickstart: Deploy your first hosted agent」ほか公式ドキュメント。本資料は2026年6月時点の公開情報に基づきます。UI・名称・利用可能モデルは変更されるため、最新は公式ドキュメントでご確認ください。